

明石市

# 無戸籍者 計算教わる

## 支援開始 元教員、マンツーマン

明石市は8日、結婚生活の破綻などを理由に親が出生届を出さずに「無戸籍」になったため、十分な教育が受けられなかった人を対象にした教育支援をスタートさせた。元小学校教員らが講師を務め、マンツーマンで読み書きや計算を指導する。

初日は、無戸籍であることを市役所に相談していた県内在住の40歳代男性が受講。男性は義務教育を受けられなかったため、釣り銭などの計算が苦手で困っていたという。

義務教育を受けられず、進学や就職を諦めた人も多いことから、市内在住もしくは在勤の無戸籍者を対象に支援に乗り出した。受講料無料で1回2時間程度の「授業」を今年度内に5回程度実施する。

この日は約2時間、引き



無戸籍の男性（手前）に計算などを教える元教員（8日、明石市役所で）＝大久保忠司撮影

算の筆算や電卓の使い方などを教わった。「3桁の計算ができるようになり、自信が持てた。これからも計算が速くなるよう頑張ります」と語った。